

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に運営理念を掲示し職員間で確認している。また、認知症リーダーが理念について会議や内部研修で理念の意味、役割について伝え共有し実践している。	理念を共有し地域に密着した全職員による利用者のための実践活動をしています。組織運営は職員への研修、定期的な参加型会議を通じてのモチベーション向上を図る教育体制が整っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の学校の朝の登校見守りや幼稚園の園児との交流、近隣の小学校でやっているグランドゴルフを見に行ったり高校の演奏会への参加、近隣施設のお祭りの参加、包括主催の認知症カフェの参加等を通して地域との繋がりがりや交流を図っている	近隣の幼稚園から飛んできた園児の絵を利用者と共に返しに行ったことをきっかけにつなごうを構築しました。近隣の高校から毎年演奏会に招待され、演奏を楽しんでいます。常に地域に密着し活発な交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方々や、ご家族に日常の活動報告を行い、広報誌を掲示し、ご家族や来訪された方へも活動に対してご理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定通り2か月に1回開催している。会議では活動報告だけでなく、事故報告や研修など実践している事の報告も行っている。出席者は他の地域密着型サービスやご家族、町会長、包括の職員等おり、ご意見を頂きサービスの向上に努めている。	運営推進会議は家族、町会長、民生委員、包括等が参加し、貴重な意見を頂いています。民生委員のアドバイスからヒヤリハットを単に事例報告に留めず事故防止対策に至るまでの記録とし、全職員に周知徹底させる仕組みに改善しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括主催のカフェへの参加や運営推進会議を通し実情等伝連携を図っている。また、高齢者支援課担当者へ電話、訪問で確認を行い、密に良好な連携をとっている。	生活支援課の職員が2か月に1回程度、生保受給者の利用者の状態を見に来ています。また、高齢者支援課とは、常に、電話での相談や訪問して確認を得るなど密接な連携をとっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は安全配慮義務から、施錠しているが職員の確認で常時解錠可能としている。身体拘束に関する委員会を設置し、検討、職員への周知を行っている。また、マニュアルを作成しつつも閲覧できるように備え置いている。	外部研修を受けた職員が講師になって毎月「身体拘束に関する委員会」を設け、職員に対する教育を実施しています。出席できない職員には結果を知らせ周知徹底を図っています。玄関だけは安全のため施錠をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する委員会を設置し、検討、スタッフへの周知を行っている。また、マニュアルの作成し閲覧できるように備え置くだけでなく、外部の研修に参加し、各スタッフへ周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	誰でも閲覧できるように入口に資料を設置し、必要に応じて、ご入居者様、ご家族様にご説明できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・個人情報の同意書等契約書類を一つ一つGHの状況に合わせてご説明し、アセスメント、ケアプランなどを通し安心してご利用頂けるよう説明・同意を頂き契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのご家族様や、ご利用者様の意見要望等伺っている。また、ご意見箱を設置し匿名でも意見を頂戴し、検討・反映できるよう苦情相談窓口も設置している。	訪問の少ない家族にはメール、電話での意見交換に努めています。頻繁に来られる家族からおやつにフルーツが少ない等の意見をいただき、それに応じて改善する体制を整えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回必ずカンファレンスを行い、全体会議等で意見交換ができるような環境を作っている。また、管理者が職員一人一人面談を行い意見、要望を伝えられような環境づくりを心掛けている。	管理者は職員の利用者からのヒヤリング、日常の観察内容をまとめたプレゼンを通して活発な意見交換を行いサービスに反映させています。職員とは夏と冬に個人面談を行い、意見、要望を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度にて、適正な評価がなされるよう、人事考課の評価面談にて本人と評価について話す機会を設けている。また、その際、自己評価に対する再確認、ステップアップにつながるアドバイスを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	12同様アドバイスや、実践者・管理者研修、外部研修、講師を招聘したり、年間を通した内部研修へ参加し、トレーニングの選択ができる環境を整えている。また、外部研修に参加した職員は、会議で発表して共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との横のつながりを生かし、それぞれの施設を見学したり、情報交換を行っている。また、他の施設の運営推進会議に参加し、情報の共有を行い、自施設のサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に必ず事前調査を行い(担当者会議含む)情報収集した内容に基づき、ご本人の気持ちに寄り添ったコミュニケーションを行いご本人に安心して頂ける関係づくりに努め、スタッフ間でも共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に必ず事前調査を行い(担当者会議含む)、必ずご家族の思いや意向をお伺いし不安なこと困ったことがあればいつでも相談できる体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時点で聞き取りをしっかりと行い、GHだけでなく医療など連携を図るよう調整、連携を行っている。また、事前調査を行う中で細かい情報から、施設内でも情報の周知を行っている。(理美容・訪問マッサージ等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意なところを尊重し、時に職員が教えて頂きながら、お互いに必要な時に助け合える環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様参加イベント等を通し、ご家族様との時間を過ごして頂いたり(外出、外泊含む)、受診を依頼したり、同行したりと連携を図り、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや年末年始の外泊・外出、面会を通し交友関係や馴染の場所など訪れる機会を支援している。	馴染みになった近隣の障害者施設への訪問に同行、他の施設に入居していた当時の友人の訪問の受入れ、編み物好きの利用者に付き添いお店探しの手伝い等、日々利用者に寄り添い支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「役割」(掃除、洗濯、食器拭き、調理等)や自立支援を通し、入居者様同士が関わりあえる、支えられる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた方がまだいらっしゃいません。 年賀状等。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の行動や会話などから思いや、ご意向をお伺いするよう努めている。また、ケースカンファレンスで各職員と、ご本人本位にサービス提供が出来るよう検討し、実践している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に必ず事前調査を行い、ご自宅の状況や、ケアマネジャーさん、ご家族との話し合い、生活歴、生活環境、要望、意向など確認し、把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今まで生活してきた状況を忘れずに生活の中でお一人お一人何が出来るかを望まれているかを組み取り、24時間シートを用いて心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を設置し、毎月のカンファレンス時にそれぞれの意見やアイデアを出し合ったり、担当者会議や多職種との連携を行い、状況に即した計画作成を行っている。	利用者ごとに担当者を決め、綿密な観察、ヒヤリング、家族の意見を聞き、関係職員間での協議を通して改善点をきめ細かく介護計画に反映させています。計画の見直しは、状態を見ながら入居後1か月、6か月で行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者様のご様子や変化を、しっかりと記録し、個人記録だけではなく、ケア方針を検討できるツールや、申し送りノートなどで情報の共有を行い検討・プラン見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お風呂や、食事、急な受診、受診の送迎などニーズに対応した提案が出来るよう、ご家族、厨房など連携を取り、サービス提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんにお越し頂いたり、近隣幼稚園との交流や、地域のお祭り、買い物、外出等地域とのつながりを持ち楽しみを持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族協力のもと定期受診やその時に応じて必要な医療機関を利用して頂いている。一人一人主治医がおり、状態に合わせて直接病院に出向き相談したりいつでも連絡相談ができるようにしている。	施設と契約した特定の訪問医はなく、利用者の多くは個々に主治医がいて往診してもらっています。特別の専門科を受診する際は職員が送迎して支援しています。家族が送迎に関わってくれる利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康面や、細かい変化を職場内の看護職へ相談・報告を行っています。また、訪問看護との連携も欠かさず、月二回の訪問時や、夜間などの相談等適宜行い、必要に応じて受診につなげるなどの支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前、入院中など医療機関と状態確認や、治療状況、退院時期等確認を行っています。また、退院時の担当者会議などで、受け入れまでの円滑な連携を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関する同意書を使用し、その状況になった場合の説明・同意を行い、了承を得ている。また、施設としてマニュアルを作成し対応をスタッフ間や関係者で周知し支援するような体制を取っている。	施設としては看取りを実施する体制を整えています。契約時に説明し、本人の状況が切迫した時点で、家族、医師、施設等で協議の上看取りについての同意書を作成します。昨年暮れから新年にかけて初めての看取り例があり、円滑に対応することができました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習等緊急時の研修を行い、職員間で周知しています。また、フローチャートを使用し各職員が動けるよう情報共有しています。その他、オンコール対応も輪番制で行い、バックアップ体制も整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に1回消防署立ち会いのもと行っています。また、内部研修として、災害対策マニュアルを使用し夜間想定訓練や、避難場所までの移動等行っています。	消防署の指導のもとで通報の仕方、具体的な避難方法等の訓練を1回と、職員が主体で夜間想定避難訓練等を1回実施しています。消防署から災害時2階の利用者は1か所に集めておくように指示されています。	災害時に地元の協力は大切です。どのような協力が得られるのか、運営推進会議などで提案し、検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や今まで歩んできた人生を尊重し声のかけ方や接し方に配慮している。プライバシーについては情報漏洩の無いよう気を付けている。	利用者への呼び方は、事前に家族らか呼び慣れた呼び方を聞き、それで呼ぶようにしています。また、プライバシーに配慮して外来者の目に触れるような場所へは名札の掲示を避けていますし、資料へ掲載する写真も後ろ姿にするなど個人が特定できないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お風呂の準備、趣味の物をご自身で選んで頂いたり、自己決定や思いを話しやすいような環境設定や言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活上、基本的な流れはあるが、一人一人のやりたいことを優先し、強要せずにそれぞれの時間も大切にさせて頂けるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時等自身で好きな洋服が選べるよう一緒に選んだり、日々の化粧水で肌の手入れ、特別な日には、お化粧をし気分を変え楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の食の嗜好を確認した上で時には食べたいものを一緒に作ったり、買い物時食材を選んで頂いたりしている。また、食事の盛り付け、食器洗い、後片付け、食器拭き等スタッフと一緒にやっている。	アンケートにより利用者の好みをきき、惣菜は関連施設で、主食、汁物は当施設で作り、盛付けをしています。行事食はおせち、チラシ、バレンタイン等季節に応じ提供し、外食は随時近隣の店へ出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、バイタル等毎日記録し、推移や状態確認に使用している。1日ごとにトータルを出し、医療連携の際などにも活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる方はご自身で行って頂いたり、お手伝いをして行ったりと実施している。また、週に1回訪問歯科が入っており、口腔ケア、義歯調整等状態確認を導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ベット上で過ごすことが多い方でもご本人のご要望でお手洗いにて排泄して頂いたり、チェック表から、その方の排泄間隔やサインなどでお手洗いへのお声がけで排泄が出来るよう支援している。	介護度が上がりリハビリ使用の利用者が多くなっています。チェック表をつけ各人の排泄の傾向を把握してトイレでの排泄に向けた支援をしています。バルーンを使用していた方が自然排尿が可能になった例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動する機会や水分量の確保を行い、シリアルやヨーグルトなど召し上がって頂いたり、場合によっては看護師や主治医に相談を行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤やゆず、菖蒲等季節に応じたお湯を楽しんで頂いている。チェック表にて入浴間隔等は確認しているが、要望があればできる限り入浴出来るよう提供している。	週2回以上は入れるようにしています。入りたがらない方の場合、その方の好みである童謡を風呂場で聴かせたり、温泉好きの方には併設施設の大浴場にスタッフも一緒に入るなどして円滑に入れるようになった例があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前に読書して頂いたり、居室にてテレビをご覧になったり、アロマを使用しリラックスして頂いたり、安眠に繋がるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の処方時には必ず、薬局さんと薬の用法、用量について確認し合い、内服後の症状の変化に対しても、密に連絡を取り合い相談できる環境を作っている。個人記録にも記載し、主治医や看護師にも繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、料理、編み物、裁縫、日記などご本人にとって得意としてきたことを行える環境作りにも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や要望を伺って、地域の方やご家族のご協力を得ながら外出や外食、買い物、認知症カフェ、近隣の学校行事、季節の外出などを行っている。	利用者の希望を聞き、家族、オレンジ隊員の協力を得て日常の買い物、認知症カフェ、近隣の学校行事(運動会)、季節の外出(桜、紅葉見物)等に出かけています。日常の外出は、利用者の様子も見ながら随時出かけるようにしています。	イベント等への参加は十分に支援されています。それとは別に、その人らしい暮らしのために、日常的な外出は、必要なことと思われず、短時間でよいので、きめ細かく試みられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人でのお金の管理が難しい方が多いため、了承のもとお預かりをしている。しかしご本人の買い物ときは一緒に支払いをして頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状をご家族に送ったり、ご本人様宛の電話があった場合はおつなぎしたり、ご家族の了承を得てご自宅に電話できる体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が好まれる歌や音楽を流したりリビングには季節を感じられるようその季節に合った飾りや置物を用意している。飾りつけは混乱を招かないような付け方を工夫している。	リビング、廊下には利用者の作った編み物、習字等の作品、イベント時の写真等を飾り季節感に配慮しています。ひな祭り、七夕、Xマスなど季節毎にスタッフ、利用者が協力して飾付けをしています。正月には模型の鳥居を作り初詣に参加出来ない方にもその気分を味わってもらいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や窓辺などにソファやイスを配置し、談笑出来たり落ち着ける居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族に相談し、馴染の物(タンス、写真、ベット等)を持参頂き、ご本人に合わせて、できる限り安心して過ごせるように工夫している。	室内は各自が写真や仏壇等思い思いの品物を置き、自宅にいると同様な雰囲気を作っています。室の掃除は、朝食後、利用者がスタッフと共にやっています。場合により他の室も掃除をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレの場所が分かるよう表記している。車いすの方がお一人でもトイレまで行けるよう広さを確保している。		